

巻頭言

新たなあゆみ

学長 太田清史

平成 18 年に札幌大谷大学が開学し、本年には札幌大谷短期大学を「短期大学部」に名称変更して、音楽学部と共に学部化をはかり、形式上は一学部二学科の大学に変貌を遂げた。

本紀要は短期大学としては 38 号を数えるが、四年制大学としては創刊号であり、それを記念して版形を一新した。美術・音楽・保育という特色のある学科を有する本学の、教育・研究業績を発表するにふさわしい、大判の紙面である。装丁は当然、美術科教員のデザインであり、これからしてすでに、「作品」である。

形状だけではなく、もちろん内容についてもより深い洞察と、創造的活力に富む論考や作品が列挙され、新生「紀要」の面目躍如たるものとなった。

学園創立 101 年目の本年、この紀要刊行によって新たな世紀に向っての学術研究の歩みが始まる。

本学は建学の精神に、宗祖親鸞の本願念仏の教えを戴いている。それは一言でいえば、「生かされていることの喜びを自他共に分かち合い、世のため人のために生きる者となる」という教えである。本誌所収の論文や作品は、すべてこの趣旨に叶うものであり、今後一層の社会貢献を果たして本学の志願を全うするものとなることを念ずる次第である。

読者諸賢には、かかる観点から厳しいご叱正を賜りたいと、お願い申し上げるところである。